

ねじと釘のプロが つくり上げた 不良品検査機



株式会社ユタカ

「検査はお金を生まない」という常識を打破

ねじや釘の製造機製作会社として創業したユタカ。安田憲司社長は、70年代に台湾を視察に行つてショックを受けたという。「日本のねじ、釘工業製品が現地では半値から5分の1で作られていたんです。日本ではそこまでのコストダウンはできない。これからは新しいことをしないとけないと感じました」。

自社でできるものは何かと模索した結果、品質の悪い外国製品に打ち勝つために、日本は高品質の物を作るべきだという考えに行きついた。折りしも自動釘打ち機が世に出はじめた頃で、釘の不良品が作業効率を大きく下げる原因になることに着目。釘製造会社からの依頼もあり、検査機を開発したのだ。



それまでは不良品を含むロットはすべてスクラップされていたという。年間2400ト出荷するうち、不良品を含んだ約50トは廃棄されていたのだ。不良品自体は少ないので選別すれば無駄なコストを削減できるのだが、手作業での選別は不可能なためメーカーの損失は大きかった。

そこで平成5年に釘とねじの検査機を発売し、国内に6000社はあるというメーカーに営業をかけた。当初は「検査をしても儲けにつながらないから」と言われ続けた。しかし、不良品をはじき出せばコストダウンにつながる事が理解されるようになり、注文が入り始めた。販売数が伸びるとともに他社が模倣するようになるが、安田社長は「うちはねじを作る会社だったから、どんな不良品が出るのかわかつていて、それに対応する検査機が作れるのが強みです」と力を込める。

大学との連携で 研究開発型企業に

ユタカでは、この他にも様々な機械の開発や製造に取り組んできた。「ヒットしたものもあれば、はずれたものもあります。だけど関西地方の複数の大学の協力を得て、常に新しい物を考え出してきました」。ここに来れば面白い研究ができると、喜んで力を貸してくれる教授も多いという。研究開発型企業であることも同社の強みだといえる。

そして、全国のシェア100%を占めるCPU検査機や、毎分800本の処理能力を持つ微小ね

じ部品の選別装置、0.2mmの選別精度で全数検査ができる検査装置等を次々と開発。まだまだ新しいものを作り出していきたいと語る安田社長は、開発の秘訣をこう語る。「常に好奇心を持つことです。海外の展示会等で、面白いもの、初めて見るものを見つけると、それがヒントになつて新製品が生まれるのです」。

同社では14名の社員が研究、開発、製造からアフターケアまで責任を持つて取り組んでいる。その目線は常に未来に向いている。

主な事業内容

BGA・CSP&FC外径検査装置、マイクロねじ全数検査装置、CCDカメラ搭載ねじ全数検査装置、自動車重要保安部品（ボルト類）検査装置の製造等



安田憲司 さん
代表取締役

株式会社ユタカ

住所／〒579-8037
大阪府東大阪市新町24-12
創業／昭和43年10月
設立／平成3年3月
資本金／1,000万円
従業員／14名（平成21年1月現在）
TEL／072-984-6246
FAX／072-981-8016

Company
Profile

全国
18

<http://www.tech-yutaka.co.jp/>